正法寺山周辺散策ガイド

鎌掛地区を見守っている標高362mの正法寺山は、江戸時代以前は後光山と言われてましたが、正法寺が創建されてから山の名を正法寺山と言われてきました。

この正法寺山を、平成20年度に滋賀県琵琶湖森林づくり県民税による、里山リニューアル事業によって登山道や案内看板などが整備され、駐車場から山頂まで約30分で登れる里山となりました。

頂上からは、東には綿向山やブルーメの丘、正面北側には鎌掛の集落から蒲生野平野、遠くには比良山系まですばらしい眺望が楽しめます。

この正法寺山周辺には、花と歴史文化にふれあえるところがたくさんあり、正法寺（別名「藤の寺」）は、5月に見頃を迎える藤や国指定の重要文化財の石造宝塔などがあります。

花の郷「日野ダリア園」は、春の牡丹と芍薬、夏から秋のダリア、冬から春は苺狩りなどが楽しめます。

また、正法寺山の東側には鎌掛城趾「城山」（373m）があり、その山腹には国の天然記念物「鎌掛の屏風岩」があります。



鎌掛集落から望む正法寺山



頂上からの眺望（鎌掛集落から蒲生野平野）

